

歯周病はさまざまな病気に関連します

歯周病とさまざまな病気に関連があることがわかってきています。因果関係が明らかなものや、関与の程度に違いがあるもの、まだ解明が十分でないものもありますが、口の中を清潔に保つことが病気予防においても重要であることがわかっています。

歯周病



歯周病原菌

【デンタルプラーク(歯垢)】

デンタルプラーク(歯垢)は色々な細菌が集団になった「バイオフィルム」です。バイオフィルムはぬめぬめした糊状のものを作ってお互にくっつきあっています。細菌が集団となったバイオフィルムには、抗菌性のある薬剤が簡単に浸透できないため、ブラシなどで機械的にていねいに取り除く必要があります。

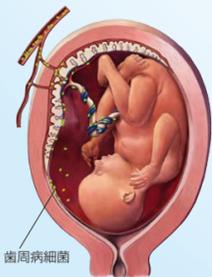
誤嚥性肺炎

お年寄りや寝たきりの人たちの嚥下反射(「ごっくん」と飲み込むこと)や咳反射(気管支や肺に入り込んだ細菌などを咳をして排除すること)は弱っています。そのような場合、睡眠中などに知らないうちに口の中の細菌が気管支や肺に入り込み、「誤嚥(ごえん)」から肺炎を引き起こします。

ピロリ菌感染胃疾患

歯周病を起こして歯周ポケット内に住み着く細菌の中には、ピロリ菌の悪友ともいえる細菌があります。その歯周病原菌とピロリ菌は、動き回ることができるという共通点のほか、菌体を構成するたんぱく質に同じものがあります。それらを排除しようとする免疫反応が働きますが、この免疫反応がピロリ菌と歯周病原菌との区別ができなくなり、結果としてアレルギー反応を歯ぐきや胃の粘膜に起こしてしまいます。すなわち、歯周病はピロリ菌感染による胃潰瘍の引き金になり、憎悪させる原因になると考えられています。

妊娠トラブル



妊娠し、胎盤が作られると、胎盤は色々なホルモンを作り、そのホルモンは体中を流れています。このホルモンが歯の周囲から滲み出ると、それをビタミンのように利用して爆発的に増える細菌がいます。この細菌が歯の周囲で増えると歯ぐきから出血すると血液が好きな細菌たちがどんどん増えます。この細菌たちは全部内毒素を持っており、歯周ポケットから血流中に持ち込まれる結果、早産や未熟児出産などの原因となってしまいます。

メタボリックシンドローム 糖尿病、肥満、高血圧、高脂血症

糖尿病になると、抵抗力が弱まり、歯周病原菌に対しても戦えず一方的に歯周ポケット内の細菌の増殖を許してしまいます。そのため歯周病が悪化します。

歯周ポケット内で作られる内毒素は、直接血流に入り込み、白血球などに取り込まれて体内に入り込みます。白血球は脂肪細胞に結びつくなどして、炎症性物質(TNF-α)を出します。そのため、糖を燃焼させるインスリンが働くことができなくなり、結果として血液中の糖が増え、糖尿病になってしまいます。

糖尿病と関係があり、メタボリックシンドロームそのものともいえる肥満は、歯周病にも関わっていることがわかっています。歯周ポケット内の細菌が作る内毒素が、肝臓でのエネルギー消費を邪魔して肥満の原因となります。

脳血管疾患・心臓疾患



循環障害の多くは動脈硬化が原因です。動脈が詰まってしまう心筋梗塞や脳梗塞などの見られる部分でも動脈硬化が起きていて血液の流れが悪くなっています。

歯周ポケット内の細菌は、運動しながら血管内に入り込んでしまいます。全身のいたるところでパトロールし、活発に細菌を食べるマクロファージは、入り込んだ細菌を食べ続けると死滅して血管にへばりつき、血管の壁に沈着物を作ってしまいます。その部位の血管は脂肪が蓄積したりして動脈硬化が起きます。心臓を取り巻く動脈の内壁に沈着物(血管内皮プラーク)ができて詰まると、心臓の筋肉に血液が流れなくなって心筋梗塞が起きます。また、頸動脈に作られた血管内皮プラークが剥がれて脳の動脈をつまらせ、脳梗塞を起こします。

骨粗しょう症

歯周病原菌は、内毒素をもって歯周ポケットから血液中に入り込みます。さらに歯の周りの細胞は、内毒素と結びつくタンパク質を持っています。すなわち、歯周ポケット内の細菌は、歯を支える骨を溶かすだけでなく、血液に入り込んで全身の骨をボロボロにしてしまいます。また骨粗しょう症になると歯を支える骨も溶けるため、歯周病が進んでしまいます。

関節炎・腎炎

むし歯を作り、歯周病を起こす細菌は色々な毒性物質をもっており、それらの細菌が作った悪い成分は血液中に入り込みます。通常私たちの体は免疫が働き毒性物質を排除しようしますが、その毒性物質が多い場合はアレルギー性の免疫反応を起こしてしまいます。歯周ポケット内で増えた細菌やむし歯が進行して歯の根の部分に集団となった細菌は、さまざまな毒性物質を作ります。それらが血流に入り込み、腎臓に溜まれば、その場所でアレルギーを引き起こします。腎臓の糸球体(血液をろ過して老廃物を尿として排泄し、必要な物質を再吸収して血液に戻す働きをしている)で歯の周りから入り込んだ毒性物質が沈殿すると、その部位でアレルギー反応がおきる結果、腎炎が発症することが報告されています。また、入り込んだ毒性物質が関節腔に蓄積されれば、関節炎になってしまうこともあります。

皮膚疾患

細菌がストレスを受けると順応しようとし、そのストレスに対応してたんぱく質が作られます(熱ショックたんぱく質)。口の中の細菌も熱ショックたんぱく質を作ります。そのたんぱく質が皮膚炎を起こすことがわかってきました。原因がはっきりしない皮膚炎が、歯の根にある慢性的な病巣を含む歯周病を治療することによって治癒することが少なくありません。

●監修：東京歯科大学名誉教授 奥田 克爾

●P&G ジャパン株式会社発行「オーラルヘルスと全身の健康」ならびに奥田 克爾著 一世出版「口に潜む恐怖のバイキン集団」から抜粋引用